

「留年・退学率を減少させるために ～柔軟に対応できる職員を目指して～」

F 班 2 グループ チーム未来創造

1. 課題認識

F 班 2 グループでは、大学も所属部署も違うメンバーであった為か、あらゆる視点からの課題・問題点が出された。一方で、私達が大学を牽引する時代になると思われる 30 年後を想像した時に「情報技術・学生・就業環境がめまぐるしく変化していくであろう。」「その中で私達職員はどうあるべきか?」という意見が出て、「いろいろな変化に柔軟に対応できる職員にならないといけない。」という結論に達した。今回、その変化の中でも学生にターゲットを絞り、学習意欲の低い学生の増加とそれに起因して留年・退学者が増加している現状がある事に着目して討議を行った。

2. 討議内容

課題:学習意欲の低い学生が増加している。

	原因	解決策
1	単位が取れない。授業についていけない。授業がつまらない。	<ul style="list-style-type: none">●魅力的なカリキュラム●学生にあった授業レベル●習熟別学習●個別対応・勉強のやり方講座・初年次教育。●計画的な履修指導
2	不本意入学。(この大学しか合格できなかった。入学したらカリキュラムが思っていた内容と違っていった等)	<ul style="list-style-type: none">●カウンセリング●退学後のフォロー(退学となった場合)●受験生への正確な情報提供。(この学科に入るとこんな事ができる等。入ってからのミスマッチを防ぐ。)
3	友人ができない。相談できる人がいない。	<ul style="list-style-type: none">●宿泊研修(入学後の必修科目として)●入学前に SNS 等を利用しての仲間作り●ピアカウンセリング●交流の場を作る(実際にネット上に。学生同士・学生と職員)

この中で、1の原因に対する教員向けの解決策として、「魅力的なカリキュラム」「学生にあった授業レベル」について、情報ツールを活用して授業改善を行う事で、学生の授業に対する意識が変わるのではないかと考え、具体的手法から評価・改善までの PDCA を検討する事とした。

3. 提案内容

課題解決の方策を PDCA でまとめる。

■PLAN(計画)

毎回の授業の中で学生に対して携帯電話を使って小テスト及び理解度を自己評価してもらい、教員はその結果から理解度を把握して、次の授業でフォローする。これを繰り返す事で、落ちこぼれてしまう学生を減らし、授業自体も活性化させる。

■DO(実行)

具体的手法:

毎回の授業で。

1. 授業開始前に学生証を利用しカードリーダーにて出席を取る。
2. 教員は今日の授業目標を設定し、授業を行う。
3. 授業の最後に教員が1で取った出席者にのみ携帯メールで小テスト及び自己評価アンケートの URL を送る。(あらかじめテスト問題とアンケートは作っておき、この時点では One-Clickのみとする。)
4. 学生は携帯電話から小テスト及びアンケートを行う。(実施結果はデータベースに保存)
5. 教員は4の結果を確認し、次の授業でフォローすべき内容を検討・準備する。

■CHECK(評価)

1. 最後の授業で、授業全体を通してのアンケートを行って集計し、理解度を確認する。
2. 毎回、出席を取り、出席率を管理し、授業の満足度を確認する。
3. 授業毎の単位取得者の増減、年度毎の留年・退学者の増減を確認する。

■ACTION(改善)

アンケートの結果として、不満に思われた部分の改善と教員のスキルアップ、授業環境の改善及び手法自体の見直し・検討を行う。

今回教員へのアプローチに着目して討議を行ってきたが、我々職員も学生のモチベーションや満足度を向上させる為に、いろいろな変化に柔軟に対応していく必要があると考える。そうすることで、留年・退学者が減少する事に繋がっていくと思われる。

4. 討議のまとめ

各大学の問題点を洗い出し、既に行われている取り組みや解決事例をお互いに紹介することができ、充実した情報交換の場となった。発表に向けての話し合いではテーマ決めまでに少し時間がかかってしまったが、解決策については PDCA サイクルモデルを念頭に置いて、具体的手法の提示から評価・改善までの一連の流れをグループ討議の中でしっかりとまとめられた。

以上